

佳作 私の家族



グエン ティ カム ニー
NGUYEN THI CAM NHI
国 籍 ベトナム
職 種 介護
実習実施者 株式会社ツクイ
監理団体 協同組合企業交流センター

人は誰もが大切にしていることや夢があります。私にとって大切なものは「家族」です。家族は私を育ててくれる根っこにあたる場所です。そして、両親の温かい愛情に包まれる場所でもあります。私の家族は両親と私の3人家族で、毎日の食事を一緒にしたり、会話を楽しんだりすることで幸せを感じられる大好きな宝物です。

子供の頃、私の家族は裕福ではありませんでした。ですから両親は朝早くから夜遅くまでずっと働いていました。そんな両親から最初にもらったプレゼントは学習机でした。それは両親が苦労して育てたキュウリを売ったお金で買ってくれたものです。2番目のプレゼントは古い自転車でした。私が徒歩で通学するのが大変だと感じて買ってくれたものです。どちらも私にとって一生忘れないプレゼントです。そんな両親の優しさに私は「これからもっと勉強して将来両親を楽にさせてあげたい」と心に決めました。私は勉強を頑張り賞状を家に持ち帰ることができるなど両親を喜ばせることができました。そんな中で私はあることを決意したのです。

それは高校卒業後に日本へ行くことでした。大学へ行かず日本に行くと両親に伝えた時、最初は反対されまし

た。私は「絶対にやり遂げるから信じてほしい」と伝え、説得を重ねた結果、両親は私の願いを許してくれたのです。会社の面接に合格した知らせを聞いた時、本当に嬉しくてすぐに両親に伝えました。両親は「頑張ったんだから合格して当然だよ」と言ってくれました。でも、その言葉とは反対に私が大学への夢を諦めて日本に行くことへの寂しさも感じられました。

日本へ出発する1週間前から両親の不安や寂しさが日に日に私にも伝わってきました。病気になった時に誰もそばにいないこと、働きすぎて体を壊さないかを心配していました。「何か食べたいものある？作ってあげるよ。向こうにはないかもしれないから」と母は言ってたくさん食べ物や日用品を持たせてくれました。荷造りの時、私は何度もこっそり泣きました。出発当日、両親は私の前では泣くのを我慢してくれましたが、私が出発する時には涙をこらえきれず、私を抱きしめ「頑張ってね」と送り出してくれました。今まで一緒に過ごしてきた娘が、今、自分達の手から離れて遠くに行くのは、両親にとっては耐え難い思いだったと思います。

新しい土地で生活を始める私は不安でいっぱいでしたが、今は両親がそばにいない分、自分の休を大事にして、どんな困難にも負けずに頑張るしかないと思っています。家族の愛から、生きることの意味や他人への愛が生まれます。誰もがいずれは自立し、遠くへ羽ばたいて新しい世界を探しに行きます。それでも、心の中ではいつも両親が私の帰りを待っていてくれると信じています。家族はこれからも私にとってかけがえのない存在であり、私の心の支えになっています。